

第1 活動資金の確保

1 社員制度（赤十字会員）の普及推進

個人社員数は、前年度に比して4.7%、19,871人の減少となり、
法人社員数は、前年度に比して0.5%、12社の減少となりました。

区 分	平成27年度 (A) 人/社	平成26年度 (B) 人/社	増 減 (B) 人/社	前年度比 (A) / (B) %
個人社員数	406,566人	426,437人	△19,871人	95.3
法人社員数	2,284社	2,296社	△12社	99.5
合 計	408,850人(社)	428,733人(社)	△19,883人(社)	95.4

2 活動資金（社費・寄付金）

社資収入は、前年度に比して2.7%、8,210,425円減の295,331,483円となりました。

(1) 社資（社費・寄付金）実績額一覧

区 分		平成２７年度実績額 (Ａ) 円	平成２６年度実績額 (Ｂ) 円	増 減 円	前年度比 (Ａ)／(Ｂ)％
地区分区扱 (個人社資)		２５２，０７１，７９２	２５７，４５３，６８０	△５，３８１，８８８	９７．９
支 部 扱 (個人社資)		７，９７１，１４１	１０，３３２，７４４	△２，３６１，６０３	７７．１
内 訳	寄付金	７，４６３，２４０	９，８２４，３９９	△２，３６１，１５９	７６．０
	募金型自販機	５０７，９０１	５０８，３４５	△４４４	９９．９
口座引落 (個人社資)		３，４８２，０００	３，７３０，０００	△２４８，０００	９３．４
クレジットカード 決済（個人社資）		２，１３９，０００	１，１１２，５００	１，０２６，５００	１９２．３
法人社資		２９，６６７，５５０	３０，９１２，９８４	△１，２４５，４３４	９６．０
小 計		２９５，３３１，４８３	３０３，５４１，９０８	△８，２１０，４２５	９７．３
海外救援金（地方税 法指定寄付金）※		７，２０３，０１８	－	７，２０３，０１８	－
合 計		３０２，５３４，５０１	３０３，５４１，９０８	△１，００７，４０７	９９．７

※支部国際活動基金に積み立てられる海外救援金については、個人住民税の寄付金税額控除の対象となるため、指定事業社資収入に計上される。

3 企業・団体とのパートナーシップ制度

赤十字活動資金への協力額に応じて、社会貢献プレートの贈呈や当支部ホームページへの掲載を行い、企業・団体の皆様とのパートナーシップによる活動資金の確保に努めました。

- ・社会貢献プレート（協力額 3 万円以上の企業・団体へ贈呈）



- ・当支部ホームページ（協力額 10 万円以上の企業・団体名を掲載）



4 ハッピースマイルベンダー（募金型自動販売機）

企業との協働により、募金型自動販売機の設置を推進し、活動資金の確保に努めました。



募金型自動販売機

第2 広 報 活 動

赤十字の使命と役割、活動内容等について周知し、赤十字に対する県民からの一層の理解と協力を得ることを目的として、様々な広報媒体やイベント等の機会を通じて広報活動を行いました。

1 市町村等との連携による広報活動

- (1) 赤十字PRポスター、広報紙
 - ア 赤十字PRポスター
 - (ア) 自治・町内会の掲示板等への掲示
 - (イ) 企業・団体等への掲示
 - イ 赤十字PR広報紙
 - (ア) 自治・町内会を通じて、県内全世帯へ個別配布
 - (イ) イベントや講習会等を通じて、参加者へ配布
- (2) 活動内容等の情報提供
 - ア 市町村広報誌等へのイベント情報等の提供
 - イ 赤十字新聞の送付（本社作成 毎月発行）
 - ウ 「日赤にいがた」広報紙の送付（当支部作成 年1回発行）
- (3) 赤十字PRブースの出展
 - ア 地区・分区の赤十字デーの行事
 - (ア) 第18回新潟市民健康福祉まつり（新潟市一日赤十字デー）
 - (イ) 第18回福島潟自然文化祭（新潟市北区一日赤十字デー）
 - (ウ) 第9回東区区民ふれあい祭（新潟市東区一日赤十字デー）
 - (エ) 第18回ふれ愛春まつり（新潟市江南区一日赤十字デー）
 - (オ) 南区夙フェスティバル&産業まつり（新潟市南区一日赤十字デー）
 - (カ) 西っ子ふゆまつり（新潟市西区一日赤十字デー）
 - (キ) 越後にしかわ時代激まつり（新潟市西蒲区一日赤十字デー）
 - イ 長岡赤十字看護専門学校「むつみ祭」
 - ウ 各種団体、町内会等が実施する行事



一日赤十字デーにおける救急法の体験



イベントにおける赤十字事業の活動報告

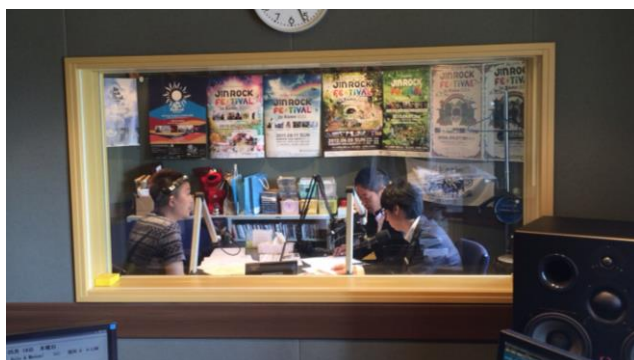
2 マスメディアを通じた広報活動

赤十字活動および活動資金への協力依頼を行いました。

(1) テレビ	放映期間	5月1日～31日
(2) ラジオ (FM)	放送期間	5月1日～31日
(3) 新聞折り込み	配布時期	12月



テレビを通じた赤十字活動報告
及び赤十字運動月間協力依頼



ラジオを通じた赤十字活動への協力依頼

3 プロスポーツチームとのパートナーシップによる広報活動

県内プロスポーツチーム（新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ）とパートナーシップを組み、社会貢献活動と広報活動を実施しました。

また、選手を対象としたAED講習会を行いました。



選手による AED 普及活動＊

＊BCリーグにおける AED 普及活動は、「ミキト AED プロジェクト」と呼ばれ、2006 年 7 月、少年野球の試合前に急性心不全で亡くなった水島樹人君の悲劇を繰り返さないための活動です。

4 インターネットを活用した広報活動

当支部ホームページ等を活用し、タイムリーな情報提供に努めました。

- (1) 当支部主催のイベント告知
- (2) 日赤地区区分が実施するイベント等の告知
- (3) 当支部並びに日赤地区区分が行った事業報告
- (4) 国内義援金、海外救援金募集案内及び実績報告

5 広報資材の配布

赤十字運動月間及びイベント等でPR資材を配布しました。

- (1) 赤十字ポスター、赤十字PRチラシ
- (2) ポケットティッシュ、救急絆創膏
- (3) 赤十字×ハローキティ グッズ

第3 災 害 救 護

1 平成27年9月 関東・東北豪雨災害〔派遣先 茨城県常総市〕

(1) 医療救護班

9月13日～16日

8人（医師2、看護師長1、看護師2、薬剤師1、主事2）

(2) 日赤災害医療コーディネートチーム

9月21日～24日 3人（医師1、薬剤師1、主事1）

(3) 日赤こころのケアチーム

ア 9月21日～24日 1人（看護師1）

イ 10月6日～10日 1人（看護師1）

(4) 日赤現地対策本部要員

ア 9月14日～17日 1人（支部職員1）

イ 9月27日～10月1日 1人（支部職員1）



常総市役所に設置した救護所で活動した長岡赤十字病院救護班

2 災害救護体制の強化と充実

(1) 救護員の登録及び常備救護班の編成

※詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

(2) 救護員等の訓練・研修会

ア 訓練

名 称	期日・開催地	参加者及び参加人数	内 容
日本赤十字社 新潟県支部救護 員訓練 (事務職対象)	7月8日 長岡赤十字病 院	救護班要員(救護班主事) 12人 災害対策本部要員 2人 血液供給要員 1人	救護資機材の 使用方法 他
長岡市 総合防災訓練	10月18日 長岡市	長岡赤十字病院 DMAT 6人 災害対策本部要員 2人 長岡市赤十字奉仕団三島分団 10人 長岡アマチュア無線赤十字奉仕団 5人	医療救護訓練 炊き出し訓練 無線通信訓練 防災教室
日本赤十字社 第2ブロック支 部合同救護訓練	11月2日～ 4日 千葉県成田市	救護班要員(救護班1班) 6人 災害対策本部要員 4人	医療救護訓練
大規模津波総合 防災訓練	11月7日 聖籠町	救護班要員(救護班1班) 6人 災害対策本部要員 3人 新発田市赤十字奉仕団 10人 聖籠町赤十字奉仕団 15人	医療救護訓練 炊き出し訓練
日本赤十字社 新潟県支部救護 員訓練 (医療職対象)	12月11日 ～12日 新潟市	救護班要員 61人 災害対策本部要員 5人 赤十字防災ボランティア 34人	医療救護訓練 ボランティア 活動訓練
日本赤十字社 第2ブロック 先遣隊要員訓練	2月3日～ 5日 神奈川県	先遣隊要員 1人	野営訓練 救護資機材の 取り扱い等
日本赤十字社 第2ブロック 被災地支部運営 訓練	3月2日 東京都	災害対策本部要員 2人	被災地を想定 した支部の運 営訓練

イ 研修会

名 称	期日・開催地	参加者及び参加人数	内 容
日本赤十字社 こころのケア指 導者養成研修会	6月20日 ～22日 東京都	長岡赤十字病院 救護班要員 1人	指導員の養成
第1回 全国赤十字救護 班研修会	7月4日～6日 兵庫県	長岡赤十字病院 指導者 4人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
救護員としての 看護師養成研修	7月15日 長岡市	長岡赤十字病院 救護班要員候補者 37人	救護班要員の 養成
日本赤十字社 災害医療コーデ ィネート研修会	8月18日 ～19日 東京都	長岡赤十字病院 救護班要員 3人 指導者 1人 新潟県支部 本部要員 1人	災害時の医療 コーディネー ト 他
原子力対応基礎 研修会	9月3日 東京都	長岡赤十字病院 指導者 1人 救護班要員 2人	原子力災害の 基礎知識 等
第2回 全国赤十字救護 班研修会	9月19日 ～21日 東京都	長岡赤十字病院 指導者 5人 救護班要員 4人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
第3回 全国赤十字救護 班研修会	11月21日 ～23日 東京都	長岡赤十字病院 指導者 5人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
第4回 全国赤十字救護 班研修会	1月9日～11日 宮城県石巻市	長岡赤十字病院 指導者 4人 新潟県支部 指導者 1人 救護班要員 2人	講義、実習、総 合シミュレー ション他
DMORT 養成研修 会	3月21日 兵庫県神戸市	新潟県支部 本部要員 1人	災害時の遺族 への対応等

(3) 自主防災組織の活動支援

自治・町内会、コミュニティ協議会等で組織される「自主防災組織」の訓練にスタッフを派遣し、応急手当の指導や災害の講話等を行いました。

区 分	平成27年度	平成26年度
実施団体数	42団体	35団体
参加者数	2,794人	3,045人

3 災害救護装備・資機材の整備

災害救護装備の整備

※詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

4 災害及び火災等の被災者への対応

(1) 救援物資の備蓄と配分

※詳細は、資料編：統計「救援物資備蓄状況」「救援物資交付状況」に掲載

(2) 災害死亡者弔慰金の贈呈

弔慰金を19人のご遺族へ贈呈



5 災害義援金の受付状況

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

名 称	金 額
長野県神城断層地震災害義援金	199,562円
屋久島町口永良部島新岳噴火災害義援金	187,005円
平成27年台風第18号等大雨災害義援金	1,747,743円
平成27年台風第21号与那国町災害義援金	46,180円
東日本大震災義援金	3,229,210円
合 計	5,409,700円

第4 赤十字奉仕団

県内77団6,638人の赤十字奉仕団は、災害時における救護支援活動や赤十字思想の普及など、赤十字の理想を達成するために必要な活動の推進を始め、他団体と連携を図りながら地域に密着した福祉活動を展開してきました。

※詳細は、資料編：統計「赤十字奉仕団結成状況」に掲載

1 奉仕団関係会議・研修会及び指導講師・職員の派遣

(1) 本社・第2ブロック支部・当支部主催 会議・研修会

- ア 赤十字奉仕団中央委員会、第2ブロック奉仕団委員長会議 等
- イ 赤十字奉仕団支部委員会、奉仕団委員長・事務担当者会議 等
- ウ 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会 等

(2) 奉仕団主催 研修会

- ア 赤十字ボランティア基礎研修会 55団
- イ 支部見学研修会（来訪団数） 13団

(3) 上記にかかる指導者（指導講師・職員）の派遣

派遣者数 約100人(延べ)

※詳細は、資料編：統計「奉仕団の育成関係会議・研修会」に掲載



支部見学研修会での炊出し研修



研修会でのグループワーク



青年赤十字奉仕団による夏期
研修会

(4) 他県赤十字奉仕団の研修会

- ア 会津美里町新鶴地区赤十字奉仕団(福島県) 支部見学研修会
(6/16 支部)
- イ 喜多方市熱塩加納町赤十字奉仕団(福島県)・小千谷市赤十字奉仕団
合同研修会 (9/7 小千谷市)

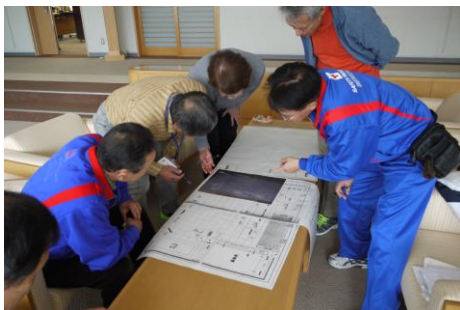
2 赤十字防災ボランティアの育成と養成

(1) 第1回 防災ボランティア検討委員会

- ア 期 日 12月11日(金)～12日(土)
- イ 会 場 新潟市(メイワサンピア)
- ウ 参加者 赤十字防災ボランティア検討委員 7人

(2) 防災ボランティア養成研修会

- ア 期 日 12月12日(土)～13日(日)
- イ 会 場 新潟市(メイワサンピア)
- ウ 参加者 赤十字防災ボランティア登録者及び候補者 33人



避難所についてのグループ
ワーク



傷病者役と防災ボランティア
役に分かれ訓練を実施



防災啓発の模擬講習

3 奉仕団による子ども支援

子ども・若者育成支援推進法（平成21年7月8日法律第71号）の目的に賛同し、子ども・若者の健やかな育成ができるよう、奉仕団が中心となって支援活動を行いました。

せきじゅうじ 花絵アクション

期 日 4月25日（土）

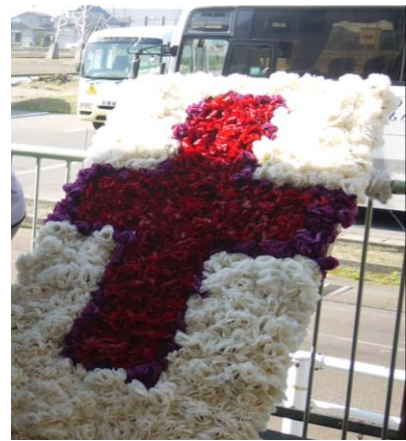
会 場 新発田市（花摘み）、見附市（花絵作製）

参加者 38人

内 容 児童養護施設（1施設）に入所している児童と奉仕団が、県の花「チューリップ」を使った花絵の作製



花絵作製の様子



花絵で作製した赤十字マーク

第5 生命と健康を守る講習

1 講習会の開催

（1）救 急 法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人（傷病者）を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き渡すまでの救命手当、応急手当の知識・技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部 ・ 施 設		地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団		団 体 依 頼		合 計	
	回数	（受講者数）	回数	（受講者数）	回数	（受講者数）	回数	（受講者数）
基礎（単独）	0	（0）	10	（54）	18	（364）	28	（418）
救急員養成 （基礎講習連続コース）	3	（90）	18	（217）	14	（647）	35	（954）

企 画 講習名	支 部 ・ 施 設		地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団		団 体 依 頼		合 計	
	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)
救急員養成(単独)	0	(0)	0	(0)	1	(21)	1	(21)
短 期	1	(48)	6	(280)	157	(7,931)	164	(8,259)
資格継続研修	2	(31)	22	(325)	3	(23)	27	(379)
合 計	6	(169)	56	(876)	193	(8,986)	255	(10,031)

(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から尊い生命を守るための知識と技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部 ・ 施 設		地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団		団 体 依 頼		合 計	
	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)
救助員Ⅰ養成 (基礎講習連続コース)	0	(0)	2	(27)	0	(0)	2	(27)
救助員Ⅱ養成	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
短 期	0	(0)	0	(0)	6	(345)	6	(345)
資格継続研修	1	(9)	2	(5)	0	(0)	3	(14)
合 計	1	(9)	4	(32)	6	(345)	11	(386)

(3) 健康生活支援講習

健やかな老年期を過ごすための健康維持・増進と、高齢者の自立をめざした介護の方法などの知識と技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部		地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団		団 体 依 頼		合 計	
	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)	回 数	(受 講 者 数)
支 援 員 養 成	2	(15)	0	(0)	0	(0)	2	(15)
資格継続研修	1	(4)	0	(0)	0	(0)	1	(4)
短 期	5	(48)	7	(163)	6	(317)	18	(528)
災害時高齢者 生活支援講習	0	(0)	2	(68)	1	(45)	3	(113)
合 計	8	(67)	9	(231)	7	(362)	24	(660)

(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい病気への対応と、事故の予防や応急手当などの知識や技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部		地区・分区、奉仕団		団体依頼		合 計	
	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)
支援員養成	2	(32)	7	(64)	0	(0)	9	(96)
資格継続研修	2	(20)	4	(30)	0	(0)	6	(50)
短 期	3	(20)	4	(63)	43	(812)	50	(895)
合 計	7	(72)	15	(157)	43	(812)	65	(1,041)



2 指導員等の育成

区 分	研修会名称	回 数 (開催地)	参加人数	主催者
救急法	講師研修会	1 回 (東京都)	2	日赤本社
水上安全法	講師研修会	1 回 (東京都)	1	日赤本社
	指導員研修会	1 回 (新潟市)	1 1	日赤新潟県支部
健康生活支援講習	講師研修会	1 回 (東京都)	2	日赤本社
	指導員研修会	1 回 (新潟市)	1 5	日赤新潟県支部
幼児安全法	講師研修会	1 回 (東京都)	1	日赤本社
	指導員研修会	2 回 (新潟市・十日町市)	3 4	日赤新潟県支部
救急法等指導員研修会		(中 止) ※ガイドライン 2015 改訂に伴い 平成 28 年度に実施		日赤新潟県支部

3 指導員の資格継続適正審査

救急法等の講習を指導する指導員は、認定証の有効期間（3年）ごとに資格の更新手続きを行います。この内、資格の更新が3回目毎にあたる指導員は、日本赤十字社救急法等講習規則施行細則に基づいて、必要な審査を受けます。

この制度は平成18年度から導入されており、平成27年度は救急法指導員76名を対象に資格継続適正審査を実施し、全員が適性と認められ資格を継続しました。

4 講習イベント

（1）親子 de 応急手当～パパママを助けよう！～

6月7日（日）に、サシクロ十町を会場に、日赤十町市地区並びに十町市と共催で「親子 de 防災学習」を開催しました。

親子で楽しみながら応急手当の方法（ハンカチを利用した応急手当及び絆創膏の貼り方）を体験したり、赤十字防災ジャンボかるたで、遊びながら赤十字や防災について、学習していただきました。



応急手当（絆創膏の貼り方）



赤十字防災ジャンボかるたで防災学習

（2）TeNYみんなの防災フェア2015

9月26日（土）～27日（日）に株式会社テレビ新潟放送網（TeNY）の主催で、ハイブ長岡で実施されました。赤十字安全奉仕団長岡市分団と長岡赤十字看護専門学校の青年赤十字奉仕団の協力のもと、一般の方を対象に「AED講習」や「風呂敷を使った防災ずきん」、「キッズフォトコーナー」、「救急車への試乗体験」などを行いました。



AED講習



救急車試乗体験

(3) 福祉・介護・健康フェア2015

11月15日(日)朱鷺メッセを会場に、新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会が主催した「福祉・介護・健康フェア2015」のイベントにおいて、日本赤十字社が実施している健康生活支援講習への理解・促進を図ることを目的に参画しました。また、「ハンドケア体験コーナー」や「災害通信指令車の展示」等のブースを通じ赤十字活動の理解・促進を行いました。



キッズフォトコーナー



ハンドケア体験コーナー

第6 国 際 活 動

1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加

対象国	事業内容	金額
ベトナム	沿岸地域の国土保全 植林による災害対策自然環境 復元事業	500,000円
ケニア	地域保健師及びボランティア を軸とした住民ネットワーク の強化等、保健医療サービスへ のアクセスを向上させること を目的とした保健衛生事業	500,000円



マングローブ植林後のメンテナンス



1歳未満児への予防接種

2 海外救援金の受付状況（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

名 称	金 額
2014年西アフリカ エボラ出血熱救援金	3,944円
2015年南太平洋サイクロン救援金	10,920円
2015年ネパール地震救援金	13,174,077円
2016年台湾地震救援金	186,750円
中東人道危機救援金	87,598円
NHK海外たすけあい	8,196,990円
海外無指定救援金	43,000円
合 計	21,703,279円

※「NHK海外たすけあい」は12月1日～12月25日まで、日本赤十字社、日本放送協会（NHK）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団との共催で実施したものです。

第7 青少年赤十字

児童・生徒が赤十字を通して、人のいのちの大切さを学び、学校生活や日常生活の中で、思いやりの心と自主自律の態度を育むことをねらいとして、県内の青少年赤十字加盟校（小・中・高校）及びこども赤十字加盟園（幼稚園・保育園）において、様々な活動に取り組みました。

また、支部から加盟校及び園に対し、赤十字のリソースを提供し、活動の活性化を図りました。

1 人材及び教材等の支援

（1）防災教育への支援

防災意識を広め高めることのできる青少年を育てるため、学校教育で活用される防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用を促進するとともに、加盟校等で実施される防災教育授業、夏期研修会等に職員や赤十字ボランティアを派遣しました。



避難訓練でいのちの大切さを伝える授業



夏期研修会での炊き出し体験

(2) キャリア教育への支援

児童・生徒が「夢や目標について自ら考え、課題を見つけ、選択できる力を育てること」を目標に、パートナーシップを組むプロスポーツチーム（新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ）からの協力を得て、加盟校へ選手の派遣を行い、特別授業を実施しました。



自分の夢と目標を語る選手



キャッチボールによる選手と児童との交流

(3) 教材及び資材の提供

ア 青少年赤十字加盟校に対し、子ども向けの教材（青少年赤十字機関紙）や教職員向け機関紙（指導情報）等の教材を提供しました。

また、こども赤十字加盟園に対し、教材となる絵本を提供するとともに、通園かばんに付けるネームプレートを提供しました。

イ 青少年赤十字加盟校の小学校1年生に対し、災害時に適切な行動をとることができるよう「赤十字防災かるた」を寄贈しました。これは、子ども達が、繰り返し遊ぶことで、読み札の内容を覚え、身につくことを期待し当支部が独自に作製したかるたです。

また、寄贈用のかるたの他に、「ジャンボかるた」も作製し、県内の保育園、市町村、赤十字奉仕団等への貸し出しを行いました。



2 加盟校等の普及及び活動推進方策の協議

支部嘱託指導講師による学校訪問を行い、青少年赤十字活動の周知と理解促進を図るとともに、本社・第2ブロック支部が主催する会議や研修会に、加盟校等の教職員から参加を得て、今後の活動推進方策について協議・検討を行いました。

第8 交通安全帽交付事業

児童を交通事故から守るとともに、地域、家族ぐるみの交通安全意識を啓発することを目的に、小学校新入学児童に対して「黄色い交通安全帽」を20,276個交付しました。



※事業実施主体 新潟県交通安全帽交付事業協議会
(新潟県、市町村、日赤県支部の三者で構成)

第9 医 療 事 業

長岡赤十字病院においては、多様化する医療のニーズに対応しながら、地域医療支援病院や救命救急センター・総合周産期母子医療センター・基幹災害拠点病院等をはじめとする高度で専門的かつ安全・安心な医療の提供に努めてまいりました。

第10 看 護 師 養 成

長岡赤十字看護専門学校においては、医療に対する国民のニーズが拡大・多様化してきていることから、保健医療の分野で幅広く活躍できる資質の優れた看護実践者を育成し、災害時の救護活動にも対応できる看護師を養成しました。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	計
学生数(人)	4 5	4 4	4 5	1 3 4

第11 血 液 事 業

新潟県赤十字血液センターにおいては、「血液法」等の関係法令を遵守し、安全な血液製剤の安定供給の確保及び献血者の安全確保に努めました。

献血者数は、輸血による副作用軽減を目的として400mL献血率の向上等に

取り組み、89,366人（前年度比95.8%）で3,935人の減少となり、効率的な事業運営を推進しました。

また、血液製剤供給数は、356,670単位（前年度比100.3%）と微増しましたが、医療機関からの要請には不足することなく安定的に供給することができました。今後についても、一層効率的な事業運営に取り組んでまいります。